

石巻市須江小国地区にある小国の郷では、被災した障害者とその家族を対象にした福祉仮設住宅が日本財団の助成を受け、他の被災地に先駆けて建設された。7 月 3 日に入居者の引っ越しが完了したばかり。土地は震災で亡くなった祥心会理事の遺族が提供するなどしたという。

風呂やトイレ、キッチンが付いた 1K で 9 畳の世帯用が 40 室と、7 人が入居する単身用のグループホーム（GH）が 2 棟。出入口にはスロープもある。障害の種別を問わずに受け入れているが、既に定員に達している。

世帯用は公設の仮設住宅と同様、一定期間家賃はかからない。単身用は通常の GH と同じ位置付けで

月に 1 万円ほど負担するという。いずれも光熱水費はかかる。

世帯用の室内には、併設した事務所につながるコールボタンがあり、万一の時は職員が駆け付けるなど 24 時間態勢で見守る。また、入居者に対して日中活動の場を提供するほか、買い物や通院も支援する。

仮設住宅は建物ごと移動でき、例えば福祉仮設住宅を解散する際に次のめどが立たない場合、津波で流された自宅の跡地にそのまま移転することも考えられるという。

（福祉新聞・2538 号 2011 年 8 月 1 日）